

ご挨拶 4代目 智隆より

青葉が眩しいこの頃、皆様いかがお過ごしでしょうか。

西川建築工房は、昨年創業100年を迎えることができました。

これも日頃からお世話になっている皆様のおかげと感謝しております。

当社は、2011年に新木造住宅技術研究協議会に加盟しました。

それをきっかけに、新築・リフォームどちらの工事においても、高断熱高気密を基本性能にすることとしました。

お客様が大きなお金を費やしてつくる家、もっと省エネでもっと快適に住んで頂きたいからです。高断熱という言葉は、どこの会社でもうたわれていますが、住んでみて「暖かい・快適・省エネ」という結果でなければ、高断熱住宅の意味はありません。高断熱を本当にきちんと施された家は、冬、エアコン1台で玄関からほっこり暖かく部屋の気温差はほとんどありません。全館暖房なのに、暖房費は半分に抑えられます。寒い冬の暮らしがガラッと変わるのです。

そこで、一度ご縁を頂いた大切なお客様には、私たちの現在のその仕事ぶりをお伝えしたいなあと、突然ですがお便りを発行することにしました。これを読んで、「なんや西川建築工房もちゃんと頑張ってるんやなあ。何かあったらまた頼もうかな。」と思って頂けたら幸いです。

西川 智隆



「冬の暮らしのこんなことが真の超高断熱・超省エネ住宅で改善!!」

お家で、以下のことで当てはまることはありませんか？

- 朝や帰宅後、暖房をつけて部屋を暖めるのに時間がかかる
- 朝起きるのが寒くてつらいことがある
- 家の中でも厚着している
- 押入れがジメジメしてカビ臭い
- 洗濯物がなかなか乾かなくて大変
- 窓ガラスの結露がひどい
- 戸を閉めているのに、どこからともなくスースーと冷たい空気を感じる
- 足元の空気が冷たくて手足が冷たくなる
- 床が冷たくてスリッパなしではいられない
- トイレ・風呂場・脱衣所が寒く入るのが億劫になる
- 暖房していない部屋は寒いから入りたくない
- 寝るとき布団が冷たく暖めないと寝られない
- 電気・ガス・灯油の暖房費が高い
- ストーブ・こたつ・カーペット・電気毛布などの暖房家電を複数使っている



5個以上当てはまることのあるなら高断熱住宅をおすすめします。

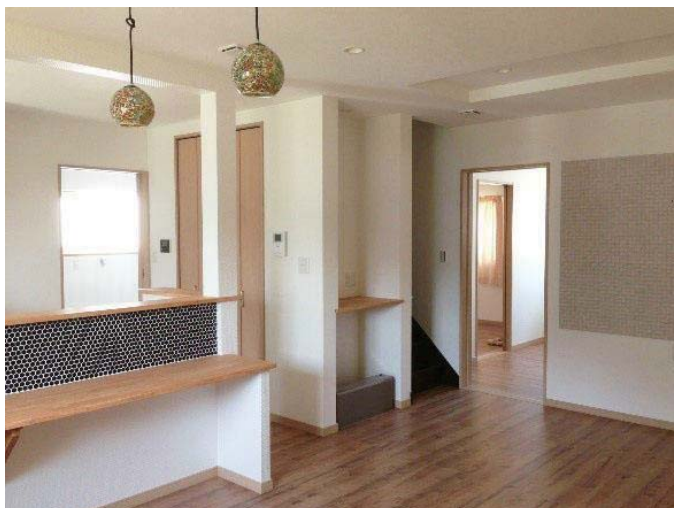
リフォームでも300万～1500万円規模の工事で、省エネ・高断熱リフォームができます。

新築工事「200ミリ断熱、超省エネパッシブハウス、長期優良住宅」

床下にエアコンを設置しました。

勾配天井に屋根断熱で2階は広々とした室内空間となっています。

高所用の電動窓で熱気抜きをおこない、空気の循環に配慮したパッシブスタイルです。



Q値：1.15 (W/m²k) 熱損失係数

C値：0.5 (cm²/m²) 完成時 相当隙間面積

お客様の声

- 情熱と真心を感じる家です。
- 太陽光なしの全館暖房なのに光熱費が安い。
- 気軽にアフターサービスを頼めます。

完成すると見えない家の性能部分。

完成時に気密測定を行い、Q値、C値を明らかにしています。真の省エネ住宅の証です。

リフォーム工事「部分省エネ・断熱リフォーム、介護リフォーム」

生活に必要な部屋をコンパクトにまとめ、その部分を断熱改修し、省エネで快適な生活ができるようにしました。

お客様の声

- 介護しやすいように、細かい点まで親身に考えてくれた。
- 真冬にこそ家のあたたかさが分かります。
- 施工が始まってからも要望に柔軟に対応してくれた。



Before



洗面室、脱衣室、トイレを一体化し、介護しやすいユニバーサルプランにしました。



After

西川建築工房のつくる家

- ◆ エアコン1台、自然の恵みを利用したパッシブデザイン
- ◆ 次世代省エネ基準大幅クリア
- ◆ 家中、冬あたたかく夏涼しいのに、冷暖房費が半分以下
- ◆ 冷えやヒートショックがない
- ◆ 結露しない

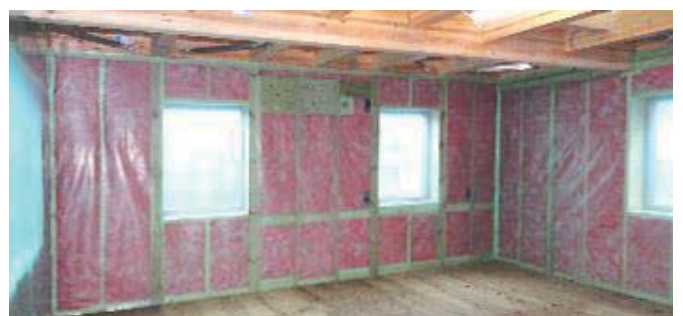
「当社自慢で自信の、高断熱高気密施工」

中途半端は知識と技術では、真の省エネ・高断熱住宅はできません。技術は、新住協の会員で確立、裏付けされています。さらに、お客様の相談を受けた担当者が実際に設計し工事をするので、「もっと快適に過ごせるように」と心を込めた施工になります。建築技術もお客様を想う家づくりの心も最高レベルだと自負しています。



例えば…

壁には高性能グラスウール 200 ミリ以上の厚い断熱施工を行います。



断熱材を覆うように 0.2 ミリ厚の気密シートを貼ることで、グラスウールを湿気から守り、気密を高めます。

「省エネ・高断熱仕様の写真スタジオ」

店舗工事でも、断熱工事をお勧めしています。

スタジオ内は、アンティークな建具でおしゃれな空間となっています。

赤ちゃんも出入りするスタジオ。自然素材をふんだんに使い、健康にも配慮しました。また、いろいろな撮影が可能なスタジオになっています。特に、壁面に取り付けた照明パネルは、時間帯や天候を選ばず、外の光が入っているかのような明るさです。

お客様と入念に打ち合わせをする中で、写真家のプロとしての情熱やとことんこだわる姿勢に触れ、わたしも自分の仕事にプライドとこだわりを持ち続けていこうと思いました。



『雑誌に掲載されました』

北関東の高断熱住宅
高断熱高気密住宅 専門の本
3+200

リフォームで冬暖かく
6つの事例

高断熱住宅の失敗例(冬漏)

燃費半分で暮らす家

高断熱住宅のQ値0.85のQ1住宅を金沢で新築し、その後も付加断熱リフォームなど高断熱を基本にした営業を展開中。

お誘いを頂いて、西川建築工房も、新住協の北関東支部の雑誌に掲載の参加をしました。

西川建築工房での新築・リフォームをご検討の方には、差し上げますのでご連絡ください。

『新住協新潟支部研修会に参加してきました』

Q1.0住宅の冬、体験見学会と
若手会員発表

- Q1.0住宅 暖房環境体験見学会 協力 菅原建築事務所
- 若手会員発表会 テーマ「私の建築レポート2014年、そして2015年」
 - ①金沢市 (株)西川建築工房 西川智隆 14:15~15:15
 - 内容…新住協支部のQ値0.85のQ1.0住宅を金沢で新築し、その後も付加断熱リフォームなど高断熱を基本にした営業を展開中。
 - ②阿賀野市 宮崎建築 宮崎直也 15:15~16:15
 - ・地域に存在価値のある工務店を目指して、断熱リフォーム等を推進する工務店経営の事業計画
 - ③(株)菅原建築設計事務所 16:15~17:00
 - テーマ「Q1.0住宅を主力にした営業を展開してきて思うこと」

今回は、プレゼン発表をさせて頂きました。発表内容は、Q値0.85のQ1住宅施工と部分断熱リフォームについての報告です。資料作成は大変でしたが、良い経験させて頂きました。

【最後に…】

このたび、みなさまとの繋がりが持てればと思い、「ほほ笑み便り」を発行させていただきました。タイトルには、「いつもほほ笑んでいられるような、快適な家づくりをしていきたいな」との想いを込めました。第一号は(株)西川建築工房が力を入れている、高断熱住宅を中心に紹介しました。詳しくは、ホームページでも記載しておりますので、ぜひご覧ください。

不定期発行となりますが、これからも近況などをお届けしたいと思っております。

ありがとうございました。

巻末の工務店一覧には、西川建築工房もマスター会員として紹介させて頂いています。

三月に新住協から新しく本が出版されました。「高断熱住宅」の本当の意味が理解できます。

燃費半分で暮らす家

高断熱住宅のQ値0.85のQ1住宅を金沢で新築し、その後も付加断熱リフォームなど高断熱を基本にした営業を展開中。